

多人種多民族国家ブラジルにおける フォークダンスの多様性

細谷 洋子 (東洋大学)

1. 問題の所在と研究目的

本研究の問題の所在は次の二点である。一点目はブラジルにおける各種ダンスを研究対象とする頻度の非均一性である。MARIANI は、ある特定の社会の文化的文脈へのダンスの貢献は多くの研究者の関心事だが、ブラジルにおけるダンス研究はサンバの形式に関してやその動作分析、文化的文脈における意味に関してが多く、他の種類のダンス研究は手薄だったと指摘する (pp. 79-81)。また、カーニバルサンバは世界的にも有名だが、それとは異なる文脈で行われる大衆的サンバや各種民衆芸能等は、これまで日本国内でも扱われる機会は稀であった。二点目は、ブラジルの特定の地域に根差したダンス文化を研究対象とした場合、その成果を相対化するための対象の必要性である。ブラジルは多人種多民族国家として生物学的のみならず文化的にも異種混雑と創造が歴史的に繰り返されてきたが、各事例をブラジル社会の文脈に布置し、相対的に捉えることで、ブラジル社会とダンス文化の全体像を理解する一助としたい。よって、無形文化財登録のブラジルの各種フォークダンス (以下ダンスとする) や民衆芸能をルーツの観点から総括し、その多様性の内実を明らかにすることを本研究の目的とする。

2. 研究方法

主に文献研究や関連サイト調査であり、一部芸能は2008~2018年まで断続的に現地を調査した。

3. 無形文化財登録にみるブラジル民衆芸能

ユネスコ無形文化遺産としては、ブラジルは8件の登録があり、その内ダンスや民衆芸能に関するのは「バイア州レコンカボ地方のサンバチホーダ (2008年)」「ファンダンゴの博物館 (2011年)」「フレーヴォ: レシフェカルナバウショーの芸能 (2012年)」「カポエイラのホーダ (2014年)」の4件である (<http://www.unesco.org/new/pt/brasil/cultura/>)。

一方、ブラジル国内歴史芸術遺産研究所 (IPHAN とする) では、国内無形文化財は2019年6月までに47件の登録がある。その内ダンスや民衆芸能は16件であり、全国共通1件、南部・南東部共通1件、北部3件、北東部9件、西中央区0件、南東部2件、南部0件であり、北部・北東部が7割を占めている (<http://portal.iphan.gov.br/pagina/detalhes/1617/>)。

(1) 全国共通の民衆芸能

①「カポエイラのホーダ」が全国共通の民衆芸能として挙げられた。カポエイラはバントウ系文

に由来する北東部バイア州発祥の格闘技である。

(2) ブラジル北部の民衆芸能

②「マアバイショ」③「中アマゾン・トパリンチスのボイブンバの文化複合」④「カリンボ」があり、②はアフリカ系移民の献身と抵抗を表現したダンスを主とする文化表現である。③はヨーロッパ系の慣習にアフリカ系とインディオ系の文化が影響し形成された、牛をモチーフとしたダンスや劇を含む民衆芸能である。④はイベリア系文化にインディオ系、アフリカ系文化が影響したペアダンスである。

(3) ブラジル北東部の民衆芸能

⑤「バイア州レコンカボのサンバチホーダ」⑥「ベンベのメルカド」⑦「マランニャオンのタンボールヂクリオウロ」⑧「マランニャオンのブンバメウボイの文化複合」⑨「フレーヴォ」⑩「マラカトゥナサオン」⑪「マラカトゥバケソウト」⑫「カボクリーニョ」⑬「カヴァーロマリーノ」があり、⑤はアフリカ系に由来し、円隊形の中で主に男女ペアでサンバを踊る大衆的ダンスである。⑥はバイア地方における文化表現をいくつかまとめた宗教的祝祭で、カポエイラやサンバチホーダ等のアフリカ系文化表現が含まれる。⑦はアフリカ系文化表現の一つで、サンバと共通の起源を有し、女性による円形でおこなうダンスとパーカッション、歌唱を含む表現形態である。その他の説明は紙幅の都合上割愛する。

(4) ブラジル南東部・南部の民衆芸能

⑭「カイサラのファンダンゴ」は、南部・南東部の沿岸地域に古くから居住するカイサラと呼ばれるインディオ系・ヨーロッパ系・アフリカ系の混血の人々によって行われるダンスである。

(5) ブラジル南東部の民衆芸能

⑮「南東部のジョンゴ」⑯「リオデジャネイロのサンバパレード」であり、⑮は、南東部の農村等で行われる太鼓、ダンス、スピリチュアリティを統合したアフリカ系文化表現である。

4. ブラジル民衆芸能の多様性 (文化的混雑性)

ブラジルは1500年のポルトガル人の入植に伴うアフリカ系強制移民の労働力に支えられて発展した。そのため、アフリカ系、インディオ系、ヨーロッパ系、アジア系等の文化の混雑によって独自文化が形成された。今回対象としたダンスや民衆芸能は、個々に、あるいは影響し合いながら発展しており、アフリカ系文化やヨーロッパ系文化を軸に他文化の影響を受け変容したものが少なくなかった。一部、既に混血した人々によって新たに行われるようになった芸能も見受けられた。無形文化財登録されていない今回扱えなかったダンスについても、今後も継続的に調査を行う。

文献: MARIANI, Myriam Evelyse. (1998) African Influences in Brazilian Dance. In: WELSH ASANTE, Kariamu. African Dance. African dance World Press, Inc, pp. 79-97.